

# 協定書の実施状況報告書

(第50報)

2019年7月

株式会社 神戸製鋼所 加古川製鉄所  
関西熱化学株式会社 加古川工場

## 目 次

1. 大気環境保全	.....	1 ~ 6
2. 水質環境保全	.....	7 ~ 10
3. 騒音防止対策	.....	11 ~ 12
4. 悪臭防止対策	.....	13
5. 発生品対策	.....	14
6. 情報公開	.....	15

## 協定書の実施状況報告書（第50報）

平成30年度における環境保全協定書の実施状況を、第50報としてとりまとめましたので、ご報告いたします。

### 1. 大気環境保全

#### （1）硫黄酸化物の排出状況

表-1に、昭和52年度以降の硫黄酸化物時間排出量の各年度における年間平均値と最大値を示し、図-1にその推移を示します。

平成30年度において、協定値を遵守していることを確認いたしました。

表-1 硫黄酸化物時間排出量の各年度実績

(単位：Nm<sup>3</sup>/時)

年 度		昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成	平成	平成
項 目		52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4
協 定 値		977	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612
実 績	平均値	545	273	248	238	211	192	232	203	164	137	126	156	137	158	166	147
	最大値	849	576	496	456	463	375	495	470	428	392	306	406	344	453	472	446

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
項 目		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
協 定 値		612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612	612
実 績	平均値	193	210	215	235	224	191	182	188	204	208	204	165	174	154	177	203
	最大値	425	445	540	508	578	530	393	479	558	568	502	496	442	361	340	407

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	
項 目		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
協 定 値		612	612	612	612	612	612	612	612	612	612
実 績	平均値	170	146	131	108	112	144	131	112	146	133
	最大値	296	238	253	226	220	339	230	209	232	249

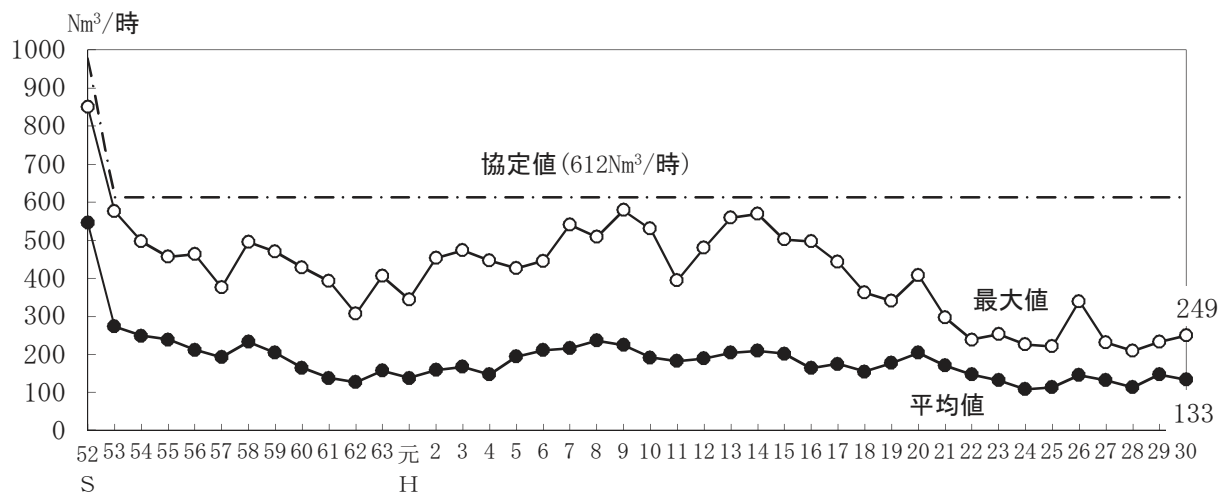


図-1 硫黄酸化物時間排出量の推移

(2) 窒素酸化物の排出状況

表-2に、昭和52年度以降の窒素酸化物時間排出量の各年度における年間平均値と最大値を示し、図-2にその推移を示します。

平成30年度において、協定値を遵守していることを確認いたしました。

表-2 窒素酸化物時間排出量の各年度実績

(単位：Nm<sup>3</sup>/時)

年度		昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3	平成4
項目		52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4
協定値		1134	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675
実績	平均値	524	461	469	429	421	411	415	408	385	397	408	434	398	405	410	416
	最大値	633	636	623	620	589	549	581	576	533	578	606	587	533	545	530	547

年度		平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
項目		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
協定値		675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675	675
実績	平均値	433	399	453	443	415	386	426	440	419	389	393	430	432	438	414	391
	最大値	558	569	591	547	559	535	562	558	577	567	534	567	587	561	534	516

年度		平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30
項目		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
協定値		675	675	675	675	675	675	675	675	675	675
実績	平均値	399	409	393	389	399	421	407	393	420	397
	最大値	551	517	554	502	512	534	533	500	515	522

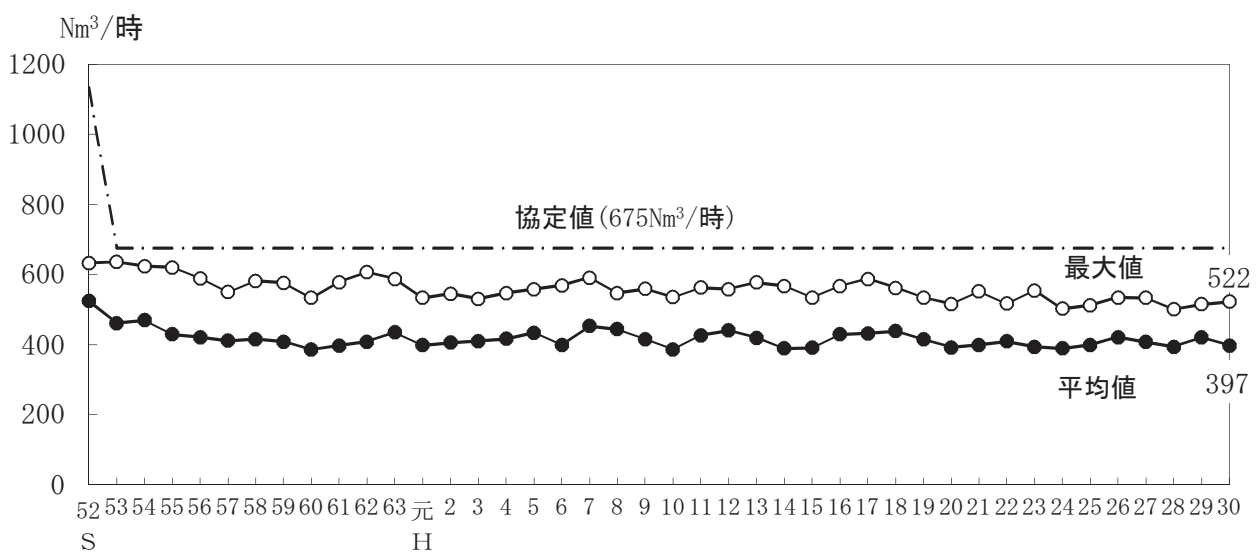


図-2 窒素酸化物時間排出量の推移

### (3) ばいじんの排出状況

表－3に、昭和52年度以降のばいじん時間排出量の各年度における年間平均値と最大値を示し、図－3にその推移を示します。

平成30年度において、協定値を遵守していることを確認いたしました。

表－3 ばいじん時間排出量の各年度実績

(単位：kg/時)

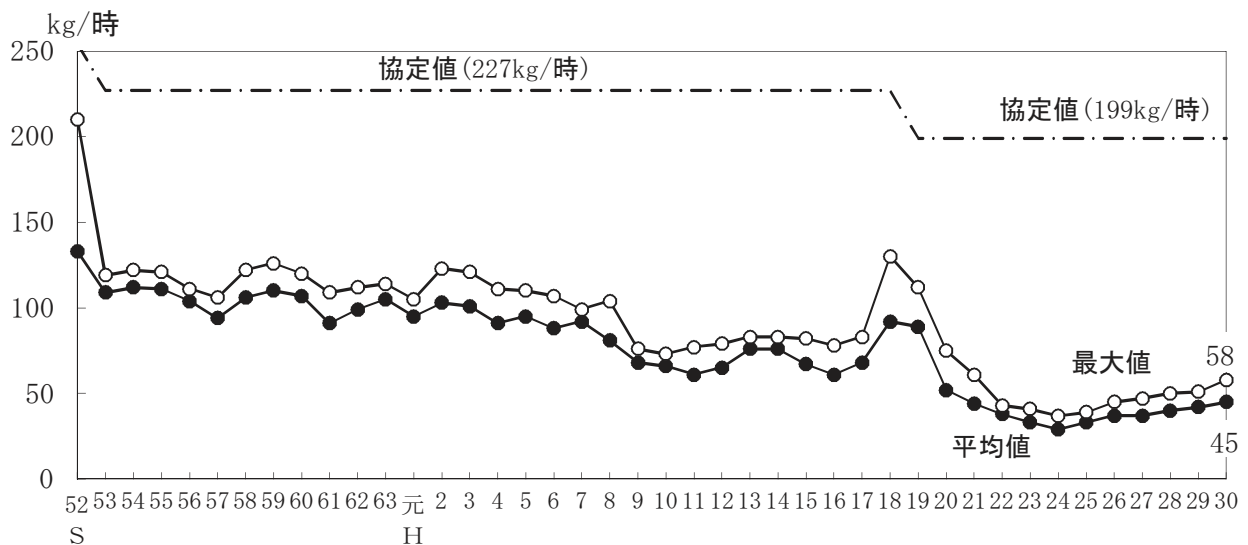
年 度 項 目	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成	平成	平成
	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	
協 定 値	254	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	
実 績	平均値	133	109	112	111	104	94	106	110	107	91	99	105	95	103	101	91
	最大値	210	119	122	121	111	106	122	126	120	109	112	114	105	123	121	111

年 度 項 目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
協 定 値	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	227	199	199	
実 績	平均値	95	88	92	81	68	66	61	65	76	76	67	61	68	92	89	52
	最大値	110	107	99	104	76	73	77	79	83	83	82	78	83	130	112	75

年 度 項 目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
協 定 値	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	
実 績	平均値	44	38	33	29	33	37	37	40	42	45
	最大値	61	43	41	37	39	45	47	50	51	58



図－3 ばいじん時間排出量の推移

#### (4) 降下ばいじん対策

図-4に、昭和48年度以降の周辺地域（浜の宮、別府、播磨）における各年度の降下ばいじん総量（神鋼測定）の年間平均値を示します。

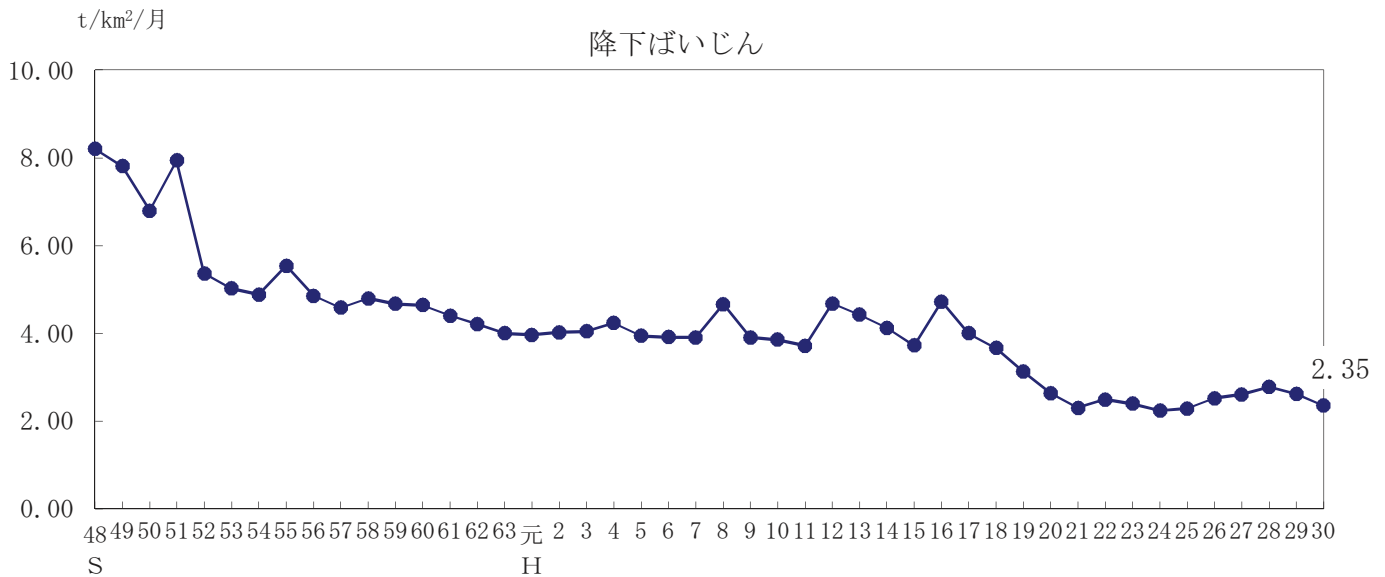
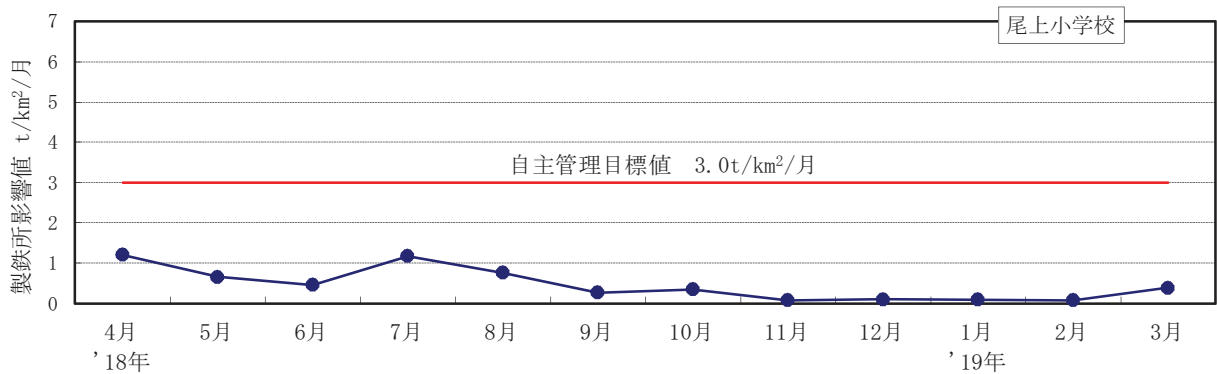
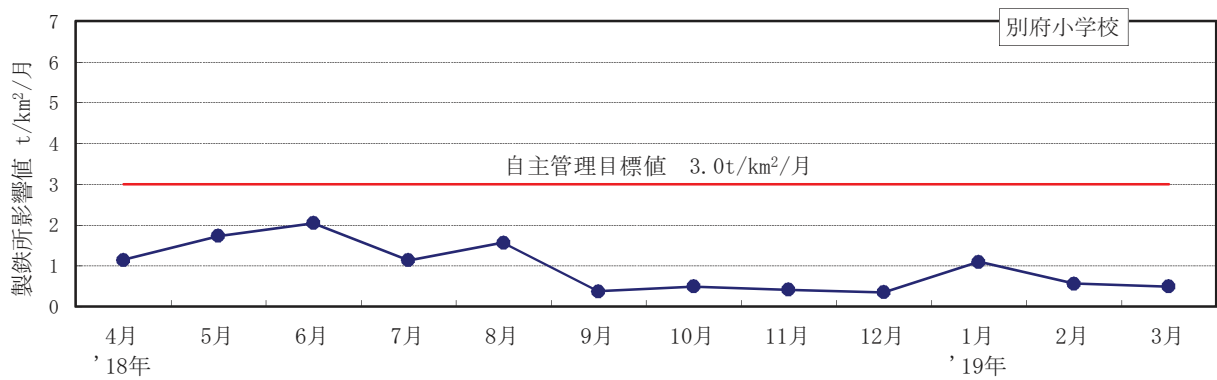
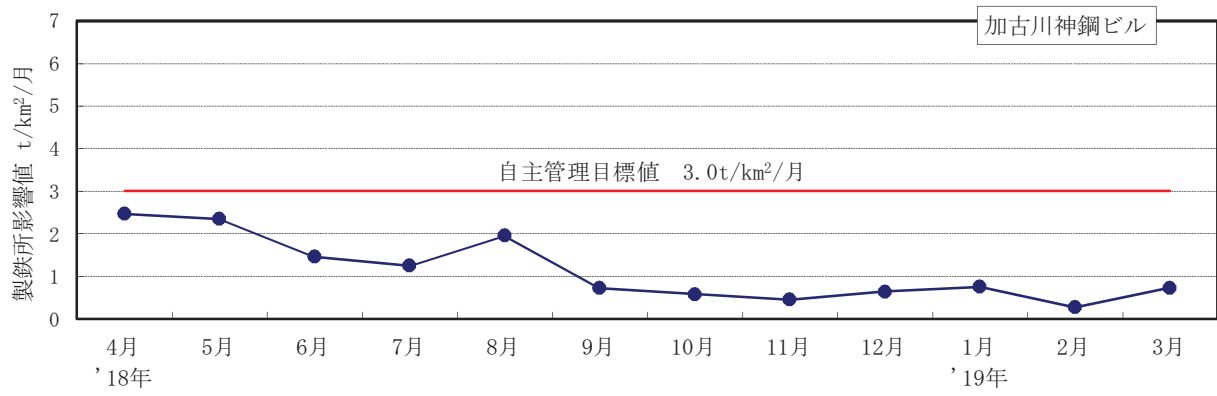


図-4 周辺地域（浜の宮、別府、播磨）における降下ばいじん総量の年間平均値

平成20年4月より降下ばいじん対策の効果を確認するため、自主的な管理目標値3.0 t/km<sup>2</sup>/月（製鉄所影響値）を設定し、管理しています。対象測定地点である加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の平成30年度の製鉄所影響値（市測定）を図-5に示します。



図－5 製鉄所影響値の推移（加古川市測定）

※台風相当の強風影響分を除いています。（18年4月、6～10月、19年3月）

### (5) 年間排出量

平成19年9月26日に改定した環境保全協定において、新たに年間排出量が規定されました。表-5に、平成19年度以降のばい煙の年間排出量を示します。

平成19年度については、年間排出量が規定されてから年度末まで一年に満たないことから、年間排出量に対象日数比率（平成19年9月26日～平成20年3月31日）を乗じた値が協定値となります。

平成30年度において、協定値を遵守していることを確認いたしました。

表-5 SOx, NOx, ばいじんの各年間排出量実績

(単位：t/年)

項 目 \ 年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成
		19	20	21	22	23	24
硫黄酸化物	協定値	4,525	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810
	実 績	2,386	5,444	4,460	3,823	3,490	2,878
窒素酸化物	協定値	5,414	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540
	実 績	4,094	7,495	7,731	7,840	7,477	7,495
ばいじん	協定値	586	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140
	実 績	352	410	328	291	241	211

項 目 \ 年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成
		25	26	27	28	29	30
硫黄酸化物	協定値	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810
	実 績	2,971	3,857	3,424	2,894	3,783	3,551
窒素酸化物	協定値	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540
	実 績	8,019	8,533	8,085	7,695	8,439	7,927
ばいじん	協定値	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140
	実 績	237	275	275	298	311	349



## 2. 水質環境保全

当製鉄所では、各工場で使用した排水を循環利用して排水量を減らすことにより、水質汚濁物質の負荷量削減を図っております。各工場毎に水処理設備を設置し、製鉄所全体としては、約97%の水を循環利用しています。また、水処理設備の維持管理の徹底、水質管理の徹底を図ることにより、水質汚濁防止に努めております。表-6～表-9および図-6～図-9に協定に定められた各種汚濁負荷量の推移を示します。

平成30年度において、水質に関する協定値を遵守していることを確認いたしました。

表-6 COD負荷量の推移

(単位：t/日)

年度 項目	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成
	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	
協定値	2.090	2.090	2.090	2.090	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784
実績	平均値	1.202	0.986	0.872	1.025	0.849	0.819	0.861	0.876	0.98	0.809	0.886	0.952	0.882	0.790
	最大値	1.740	1.337	1.330	1.483	1.28	1.147	1.276	1.262	1.219	1.077	1.091	1.176	1.110	0.980
年度 項目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
協定値	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	
実績	平均値	0.641	0.658	0.618	0.672	0.652	0.546	0.591	0.582	0.639	0.721	0.649	0.649	0.664	0.716
	最大値	0.965	0.925	0.840	0.945	0.799	0.641	0.705	0.693	0.808	0.938	0.797	0.866	0.865	1.031
年度 項目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
協定値	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	1.784	
実績	平均値	0.665	0.724	0.715	0.681	0.598	0.607	0.523	0.536	0.578	0.570	0.564	0.555	0.589	0.589
	最大値	0.975	1.056	1.110	0.955	0.857	0.777	0.645	0.646	0.745	0.681	0.729	0.630	0.862	0.745

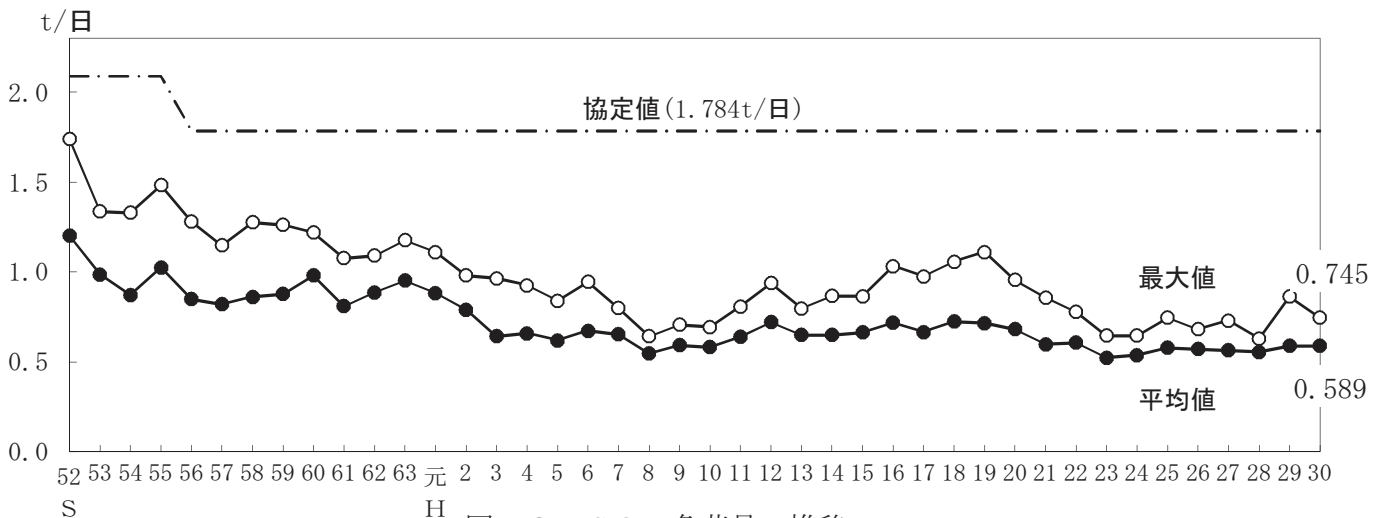


表-7 SS負荷量の推移

(単位：t/日)

年度		昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成
項目		52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2
協定値		2.408	1.546	1.546	1.546	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898
実績	平均値	0.991	0.734	0.645	0.64	0.454	0.45	0.467	0.417	0.464	0.386	0.514	0.514	0.457	0.372
	最大値	1.790	1.087	1.039	1.026	0.612	0.713	0.676	0.693	0.665	0.593	0.682	0.635	0.742	0.771

年度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
項目		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
協定値		0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898
実績	平均値	0.307	0.299	0.295	0.393	0.407	0.368	0.367	0.361	0.460	0.461	0.285	0.218	0.359	0.264
	最大値	0.682	0.644	0.622	0.671	0.728	0.686	0.634	0.600	0.834	0.696	0.616	0.440	0.628	0.480

年度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
項目		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
協定値		0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898	0.898
実績	平均値	0.262	0.291	0.261	0.203	0.132	0.121	0.078	0.09	0.095	0.114	0.112	0.077	0.088	0.094
	最大値	0.649	0.653	0.494	0.607	0.383	0.372	0.115	0.172	0.164	0.202	0.272	0.115	0.140	0.132

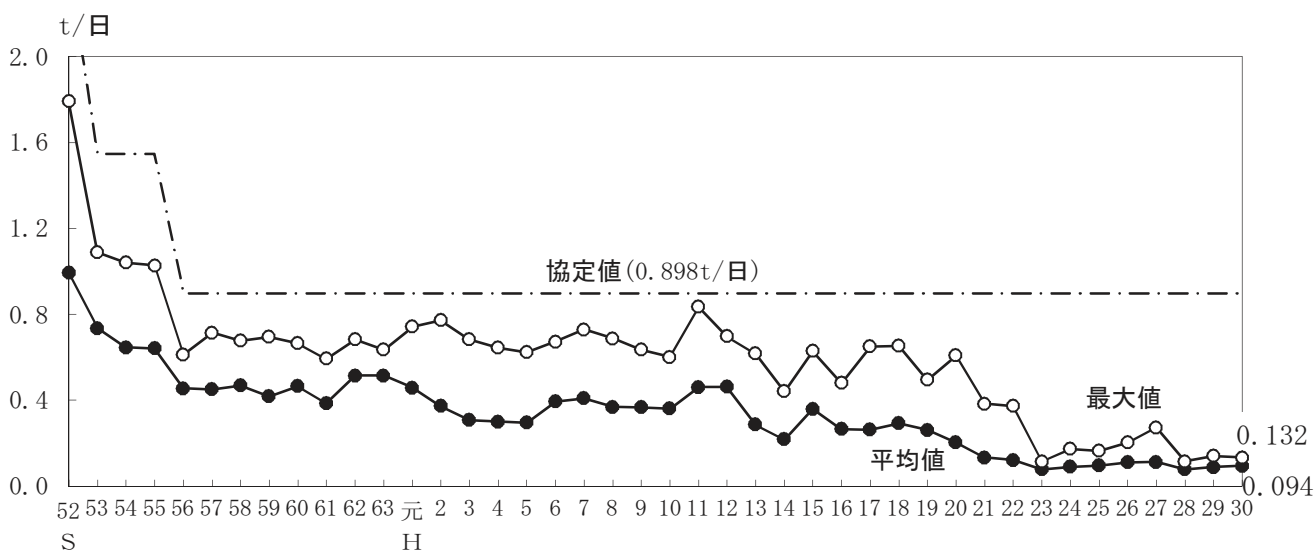


図-7 SS負荷量の推移

表-8 ノルマルヘキサン抽出物質負荷量の推移

(単位: t/日)

年度 項目	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成
	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	
協定値	0.303	0.264	0.264	0.264	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151
実績	平均値	0.137	0.088	0.093	0.065	0.047	0.055	0.069	0.067	0.058	0.049	0.049	0.057	0.056	0.056
	最大値	0.284	0.170	0.156	0.151	0.066	0.116	0.119	0.101	0.093	0.070	0.071	0.099	0.097	0.093

年度 項目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
協定値	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	
実績	平均値	0.049	0.048	0.042	0.041	0.049	0.040	0.044	0.046	0.046	0.048	0.045	0.041	0.043	0.039
	最大値	0.090	0.068	0.052	0.054	0.059	0.049	0.057	0.054	0.056	0.061	0.051	0.050	0.052	0.046

年度 項目	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
協定値	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	0.151	
実績	平均値	0.038	0.026	0.021	0.019	0.018	0.020	0.019	0.018	0.018	0.020	0.019	0.019	0.019	0.019
	最大値	0.043	0.051	0.025	0.024	0.022	0.023	0.020	0.020	0.021	0.021	0.021	0.022	0.021	0.021

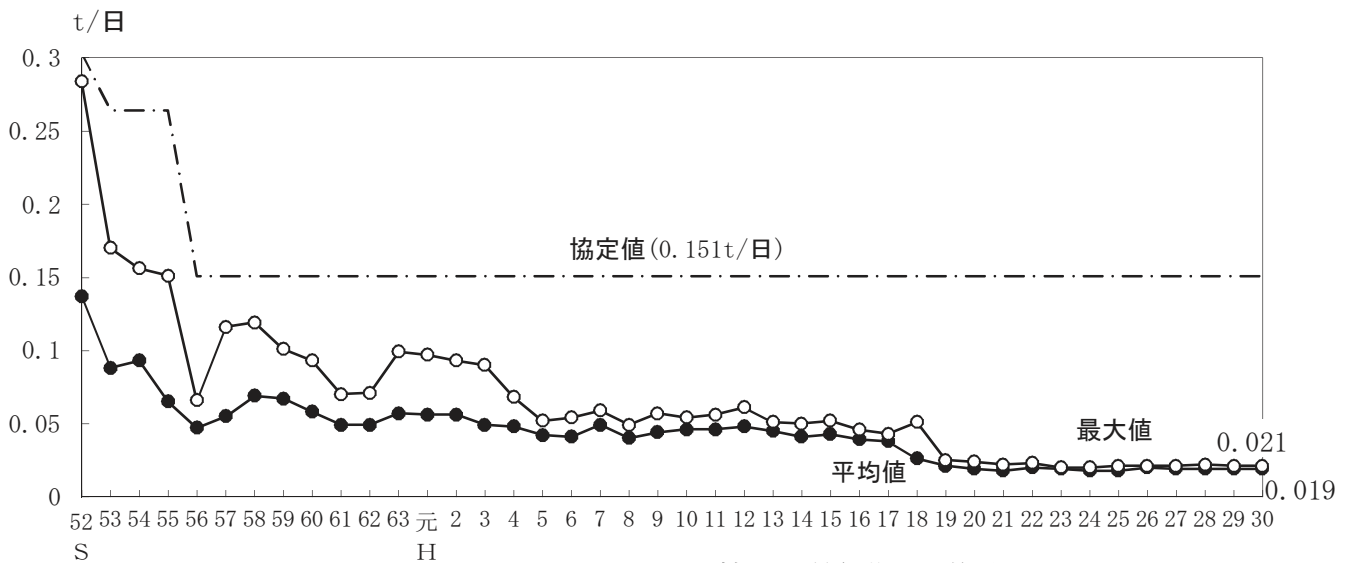


図-8 ノルマルヘキサン抽出物質負荷量の推移

表－9 溶解性鉄負荷量の推移

(単位：t/日)

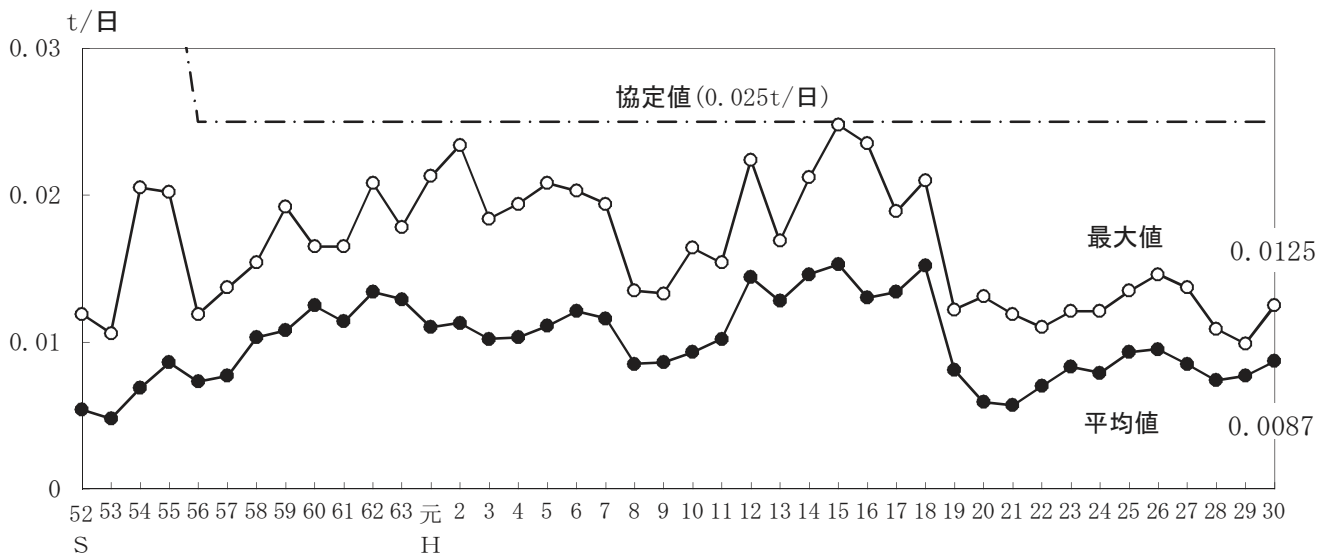
項目	昭和													平成	
	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	
協定値	0.131	0.037	0.037	0.037	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	
実績	平均値	0.0054	0.0048	0.0069	0.0086	0.0073	0.0077	0.0103	0.0108	0.0125	0.0114	0.0134	0.0129	0.0110	0.0113
	最大値	0.0119	0.0106	0.0205	0.0202	0.0119	0.0137	0.0154	0.0192	0.0165	0.0165	0.0208	0.0178	0.0213	0.0234

項目	平成														
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
協定値	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	
実績	平均値	0.0102	0.0103	0.0111	0.0121	0.0116	0.0085	0.0086	0.0093	0.0102	0.0144	0.0128	0.0146	0.0153	0.0133
	最大値	0.0184	0.0194	0.0208	0.0203	0.0194	0.0135	0.0133	0.0164	0.0154	0.0224	0.0169	0.0212	0.0248	0.0235

項目	平成														
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
協定値	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	
実績	平均値	0.0134	0.0152	0.0081	0.0059	0.0057	0.0065	0.0083	0.0079	0.0093	0.0095	0.0085	0.0074	0.0077	0.0087
	最大値	0.0189	0.0210	0.0122	0.0131	0.0119	0.0110	0.0121	0.0121	0.0135	0.0146	0.0137	0.0109	0.0099	0.0125



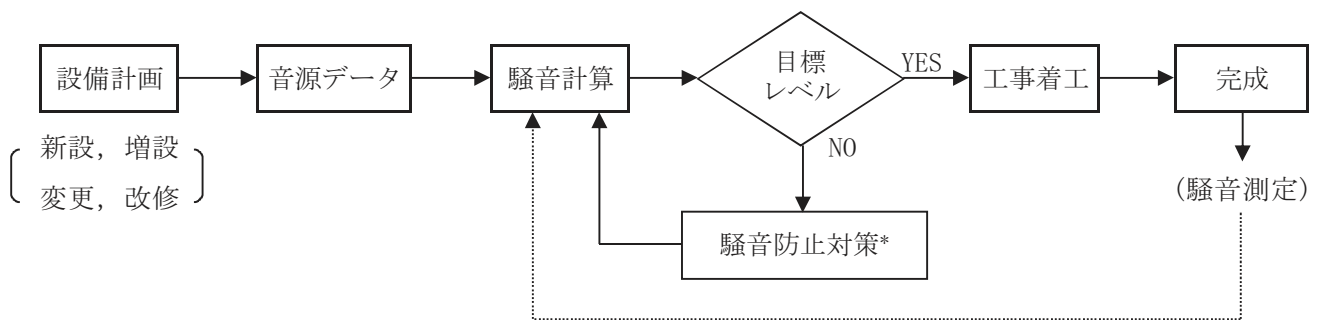
図－9 溶解性鉄負荷量の推移

### 3. 騒音防止対策

騒音については、主として送風機、圧縮機、破碎機等の既設騒音発生源を中心に対策を実施してきました。

また、設備の新設、増設、変更並びに改修に際しては、設計段階から騒音防止対策を織り込み、騒音の低減に努めています。

《騒音防止対策の検討フロー》



\*:騒音防止対策例：サイレンサー（膨張型，吸音型，セル型），防音ラギング，防音建屋，防音ボックス，防音壁，低騒音型設備の導入及びこれらの防音対策の組合せ等。

騒音発生状況を確認するため、製鉄所周辺3か所に騒音自動測定装置を設置しています。

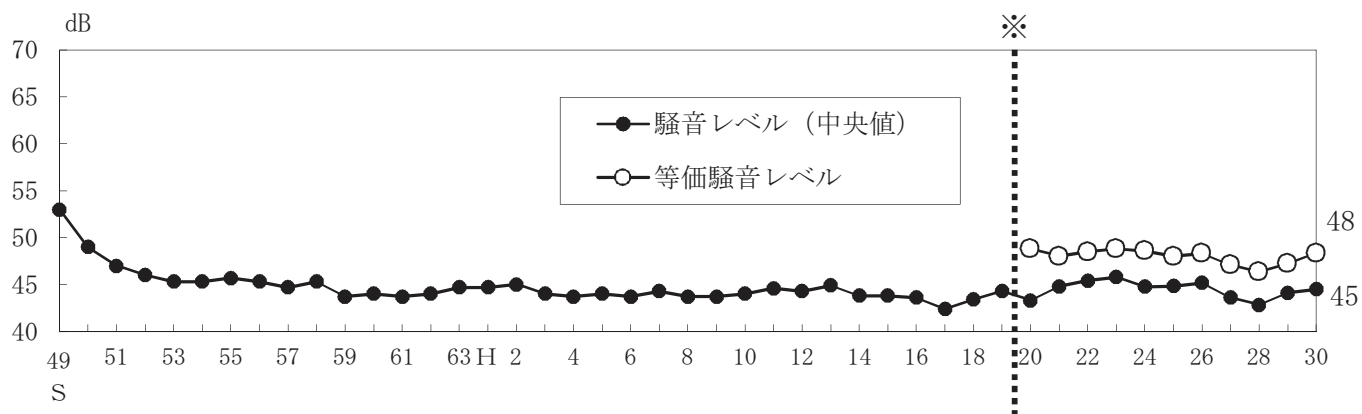
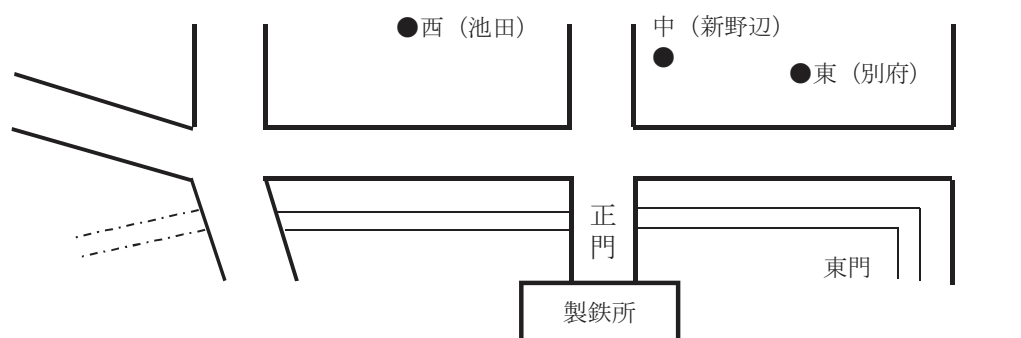
平成30年4月～平成31年3月における23時～翌朝5時の自動測定による騒音データを整理した結果を表-10に示します。

製鉄所周辺3か所における平均の騒音レベルの推移を図-10に示します。

表－１０ 騒音測定結果

測定期間	測定場所	平均等価騒音レベルdB	60dB を超えた頻度
平成30年4月～ 平成31年3月	東（別 府）	54	0.6%
	中（新野辺）	48	1.1%
	西（池 田）	43	0.2%

測定場所



図－１０ 住居地域（東、中、西）における騒音の経年変化（23時～翌朝5時）

※協定改定にあわせ、平成20年度から騒音の測定項目を騒音レベル（中央値）から等価騒音レベルに変更いたしました。

#### 4. 悪臭防止対策

平成30年度の敷地境界での測定値を表-11に示します。悪臭防止法の規制値（=協定値）を遵守していることを確認いたしました。

表-11 悪臭測定結果

(単位：ppm)

		アンモニア	硫化水素
基準値	一般地域	1	0.02
測定結果	平成30年4月～ 平成31年3月	最小：不検出 最大：不検出	最小：不検出 最大：0.003

## 5. 発生品対策

製鉄所で発生するスラグ等の各種発生品について、製鉄所内外での用途拡大や高付加価値化を推進し、資源化に取り組んでいます。

(1) 高炉スラグについては、セメント原料、コンクリート用細骨材、道路用路盤材を主体に全量を資源化しています。

製鉄所で保有するスラグ微粉末製造設備を利用して高炉セメントの原料となる高炉スラグ微粉末を製造しています。高炉セメントは普通セメントに比べ、発熱が少ない、耐久性が高いなどの特徴があります。

(2) 製鋼スラグについては、主に路盤材や土木工事用資材として利用されています。

製鋼スラグの膨張を抑制するために蒸気エージング処理を実施するなど品質を管理し、資源化を促進しています。

図-11に平成30年度の高炉スラグと製鋼スラグの発生量と再利用の用途を示します。

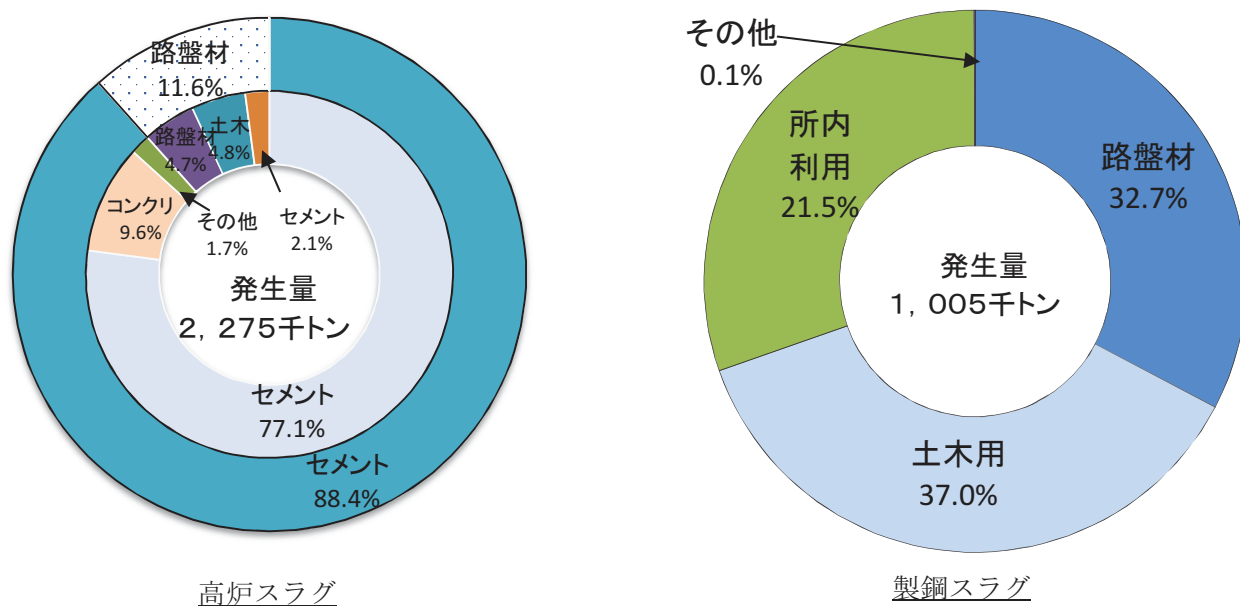


図-11 高炉スラグ，製鋼スラグの発生量と用途



## 6. 情報公開

### (1) 現地説明会

平成30年5月27日に現地説明会を開催し、18名の皆様にご参加いただきました。粉じん対策等の環境保全の取り組みを説明した後、実際に現地をご見学いただきました。

### (2) 環境報告書

平成30年5月に2017年度下半期、11月に2018年度上半期の環境報告書を発行し、ご希望の皆様に配布させていただきました。

### (3) 公開モニタ

ばい煙と降下ばいじんに関するデータ及びお知らせを継続して公開しています。